

今回の特集は健康関連 QOL に焦点を当て、リハビリテーション分野における健康関連 QOL の視点と各種疾患における位置づけ、包括的評価法および疾患特異的評価法による QOL 評価の実際や課題などを解説していただいた。

■健康関連 QOL とリハビリテーション

健康関連 QOL の概念や定義はいろいろあり確定したものはないが、共通しているのは「健康関連 QOL は患者が感じるアウトカムである」ということである。評価法（尺度）として効用値等を測定する選好に基づく尺度と、健康を多次元的に測定するプロファイル型尺度に大別される。前者は効用値測定のため QOL を一次元で表し、その代表として EuroQOL (EQ-5D) がある。後者は多領域を多次元のまま表現し、症状インデックス、包括的尺度、疾患特異的尺度に分類される。包括的尺度としては SF-36, SIP, NHP などがあり、リハビリテーション分野でも SF-36 をはじめ包括的 QOL 評価法が広く使用されている。それらの尺度で得られる数値データだけでなく、患者それぞれの物語やインタビュー内容を分析する QOL の質的分析の意義や重要性にも触れている。（出江紳一氏ら，997 頁）

■脳卒中

脳卒中患者において信頼性、妥当性が確立している包括的 QOL 評価法として SF-36 と EuroQOL があげられる。特異的 QOL 評価法として SS-QOL が、変化に鋭敏で少人数でも差を検出しやすく、経時的変化にも適用できる利点がある。また、脳卒中中の QOL の効用値を測定した研究について解説されている。（佐伯 覚氏ら，1003 頁）

■外傷性脳損傷（脳外傷）

脳外傷者は多くの場合、認知面に問題があるため、QOL の測定における自己評価の信頼性について議論の余地がある。米国での報告から、QOL に影響を与える因子として重症度、ADL、精神状態、社会的状況がある。SF-36 および EuroQOL を用いた調査、さらに費用対効果と健康関連 QOL について解説されている。（岡本隆嗣氏ら，1009 頁）

■脊髄損傷

包括的評価法として SF-36, EuroQOL, SIP および CHART を用いた報告や日本語版について解説されている。特異的評価法として Brief QL questionnaire for SCI, QLI, LSQ があげられる。（田中宏太佳氏，1015 頁）

■関節リウマチ（RA）

RA 患者の QOL 評価法として AIMS, FSI および SIP を比較検討している。SF-36 による評価では、一般健康人と比較して RA 患者は 8 領域中 6 領域で有意に低く、RA 患者全体の QOL が低下していることが示された。（前田真治氏，1021 頁）

■慢性閉塞性肺疾患（COPD）

COPD の治療には複数のガイドラインがあるが、いずれも健康関連 QOL を重要な指標として取り上げている。特異的尺度の代表として CRQ と SGRQ があり、これらによる評価の方法や呼吸リハビリテーションの効果が解説されている。（花山耕三氏，1025 頁）